

# ぼくたちからも、はじめよう



## おくしま はじめ人

File No.11

こおりやま福来応援隊

隊長

中山 周愉さん

(高瀬小学校6年生)

隊長

松本 直樹さん

(高瀬小学校6年生)

事務局長

遠宮 昭真さん

(高瀬小学校6年生)

<プロフィール>

震災からの復興と、郡山のまちづくりを子どもの目線から応援しようと、平成26年4月に3人で活動開始。当時小学5年生だった遠宮さん自ら、公益財団法人キリン福祉財団に助成金を申請。採択され、活動の範囲が広がる。現在のメンバーは12人。

### きっかけは、『ゆめだより』

「知事に会っていろいろ聞いてみたい」。遠宮さんは本誌『ゆめだより』にはがきを送り、平成26年6月号の「みんなのゆめ」コーナーで佐藤雄平知事(当時)への取材が実現しました。

「とっても緊張したけど、知事の復興にかける思いを聞いて、ぼくたちでもできることがないか、真剣に考えるきっかけになりました。3人集まるとやりたいことがいろいろ出てきて、考えたり話し合ったりするのがとても楽しいです」(遠宮さん)

「ぼくたちからも、はじめよう」をキャッチフレーズに、『こおりやま福来応援隊』の活動がスタートしました。

「今は12人の隊員で、どんな活動をしたらみんなが元気になるか話し合う定例会議をしています。最初は自分の意見を話すのが恥ずかしかったけど、だんだん楽しくなってきました、自分の考えを言えるようになりました」(中山さん)

### 大人を巻き込み

### アイデアを実現させる

『B-1グランプリ』が郡山市で開催されることを知った隊員たちは、

他県の成功事例を勉強し、自らが探したご当地グルメを販売するアンテナショップ『こども商店街おんぶちゃん食堂』の運営に乗り出します。

「これなら郡山の元気を発信できるんじゃないかって考えました。ただ、販売など、自分たちでできることは限られるので、大人に相談しました」(遠宮さん)

大安場史跡公園『秋の古墳まつり』に試験的に出店すると、クリームボックス100食、味噌カンプラ50食が午前中に完売。続いて駅前大通りでの『B-1グランプリ』開催期間中には、売上金を郡山市に寄附するまでに大成功しました。

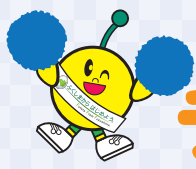


大盛況だった「おんぶちゃん食堂」

「商品の準備、接客の大変さを知ることができたし、お客さんから『おいしかったよ』『頑張ってるね』と声をかけてもらって、人と触れ合うことが楽しかったです」(遠宮さん)

### 自分たちで、まちを 考える大切さ

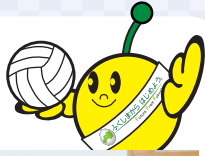
隊員からは、どんどん新しいアイデアが飛び出していきます。「自分たちの言葉で発信したい」と始めた、コ



# ぼくの // わたしの // チャレンジ「自慢」

県内の頑張っている児童・生徒の活動を応援します！

## 保原バレーボール スポーツ少年団 男子(伊達市)



保原小、桂沢小、国見小、富成小の合同バレーボールチーム。小2から小6までの14人が週4日活動。昨年11月のうつくしまふくしま県小学生バレーボール選手権大会で3位に入賞し、さらに上を目指して練習しています。



1番:主将 神田 拓海さん(小学6年)  
2番:副主将 佐藤 歩音さん(小学6年)



### 「合同チーム」ならではの結束力

「合同チーム」というとバラバラなイメージですが、各校の「代表」のような意識の高い児童同士が同じ目標を持って練習することでチーム力が高まっていると思います。素直で仲がよく、みんな元気で、入団当初から比べると自ら進んで練習に取り組む姿勢や礼儀など、練習以外の日常生活でも日々成長しています。(団長の齋藤徹雄さん)



### 男子のバレーボールを盛り上げたい



昨年の大会は、いつも隣のコートで練習している女子チームも応援してくれて、「チーム全体がひとつになった」試合でした。おかげで3位に入賞でき本当にうれしかったです。ぼくたちは卒団しますが、後輩には変わらず元気にあいさつや返事ができるチームとして、そして今よりもっと強くなって県で1番を取ってほしいです。残念ながら、男子のバレー人口が減っていて、進学する中学校には男子バレー部がないので、クラブチームへ入ってバレーを続けます。レギュラーになって大会で優勝したいです。(主将 神田さん)

### あなたの周りの「チャレンジ」を大募集！！

頑張っている児童・生徒の皆さんをご紹介します。自薦・他薦を問わず、「チャレンジしていること」「活動報告」を募集します。学校・学年・クラス・部活動・サークル単位の応募はもちろん、個人の立候補も大歓迎。ふるってご応募ください。

**応募方法** 郵便はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号・活動内容を記入の上、ご応募ください。採用の方には、後日ご連絡の上、取材にお伺いします。

**郵送先** 〒960-8670 県庁 広報課「チャレンジ自慢」係  
個人情報、記事や取材などにお使いいたします。



Eメール・ファクスもOK!  
16ページをご覧ください。



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.



「ふるさとの元気！  
応援CM大賞」で優秀賞に



隊員たちのアイデアは  
尽きない



元気を発信するための  
定例ミーティング

「この記事が出る頃には、届いていないと思いますが(笑)、今、自分たちで継続していることに驚きます。体験を始めるなど、隊員たちは次々にアイデアを実現させるだけでなく、すべての企画が一回きりではなく続いていることに驚きます。」

「この記事が出る頃には、届いていないと思いますが(笑)、今、自分たちで継続していることに驚きます。体験を始めるなど、隊員たちは次々にアイデアを実現させるだけでなく、すべての企画が一回きりではなく続いていることに驚きます。」

「この記事が出る頃には、届いていないと思いますが(笑)、今、自分たちで継続していることに驚きます。体験を始めるなど、隊員たちは次々にアイデアを実現させるだけでなく、すべての企画が一回きりではなく続いていることに驚きます。」



ラジオ番組も企画出演中

「まち」のいいところを探して撮影し、年賀状にしています。『福が来る幸せの年賀状』として、応援してくれる人たちに送るんです(遠宮さん)

「自分たちで『まち』を考える大切さを知りました。ぼくたちの活動を通して、大人も元気になってくれたらうれしいです(松本さん)

将来、家業を継ぎたいという松本さん。両親と同じ介護職で人の役に立ちたいという中山さん。医者になつてみんなの役に立ちたいという遠宮さん。この活動は、夢に向かって進む大きな自信になっています。